

舞子・北小松間)で貨物が転覆したことがあるが、台風のときの比良オロシには、異常な側面があるので注意が必要である。JR湖西線では、大谷川にある風速計が25m/s以上の最大瞬間風速を記録すると運行を止めることになっているようで、湖西線の強風によるストップはそう珍しいことではない。

第3節 比良オロシの1つの仮説

比良山系のオロシ風には、よく知られているように比良八荒がある。これは、「比良の八荒あれじまい」と言われるように、比良山麓の志賀町では春先に必ずといっていいほど吹くオロシ風である。1999年3月も、19日から20日にかけて、強烈な比良八荒が吹いた。ピワコダス風観測結果を、図30に示す。

図30より、志賀町北小松では、夕方6時から翌朝10時まで、16時間に及ぶ強烈な比良オロシが吹いたことがわかる。また、20日の午前8時10分における風ベクトル画像の1コマより志賀町北小松における風速が突出していることが分かる。滋賀県北部では、北西の風が吹いているが、南部では非常に弱い風しか吹いていないことがわかる。

このオロシ風の様子を調べてみた。結果を図31に示す。

今回の比良八荒は、図を見てわかるように19

日午後6時から、20日10時ごろまでかなりの強さで持続した。今冬では初めての記録的な強力で長時間持続した比良オロシである。上段には12時間おきの地上天気図を示す。地上天気図は、インターネットのWNI Cyber Weather World : <http://www.wni.co.jp/cww/index.htm>より入手した。低気圧は東シナ海から日本列島南岸を発達しながら北東に移動した。北部の日本海には高気圧が張り出している。地上天気図の等圧線は混み合っている。

ここで着目したいのは、等圧線の傾きである。比良八荒の強いときは、北東から南西へほぼ45度に寝ている。これよりも傾きが小さくても大きくても比良オロシは弱いようである。

インターネットで入手したアメダスの風向・風速の30日午前6時の近畿・中部の図を示す。

アメダス風速・風向画像データは、インターネットのIMOC Weather Page : <http://www.imoc.co.jp/>より入手した。風は赤線のような流線を描いているように思える。このようなパターンがアメダスの風向・風速画像では、長時間持続した。

短時間の比良オロシは、日本海高気圧や、低気圧の通過によっても引きおこされるが、この例のように長時間持続する場合には、風の流れに、中部山岳地帯を迂回する北東の風の影響があるのではないだろうか。

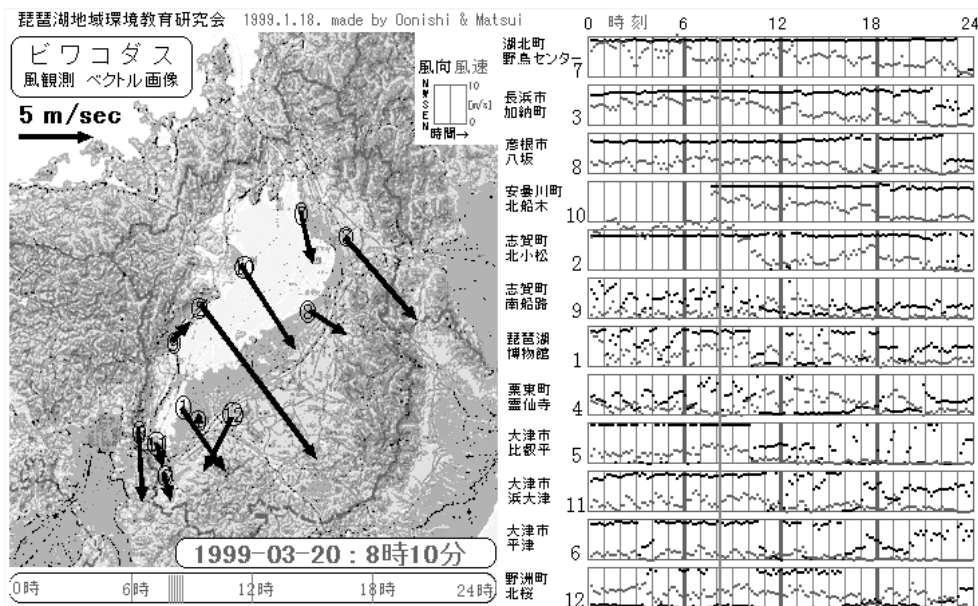


図30 比良八荒のピワコダスJava画像 (1999年3月20日午前8時10分)(口絵6-2参照)

比良オロシは、どういうルートで吹いてくるのか、また発生するのは、まだよくわかっていない。今回の仮説が正しいかどうかを、今後も追跡しなくてはならない。

参考文献

(1)彦根地方气象台，1993．滋賀県の気象（彦根地方气象台創立100周年記念）。

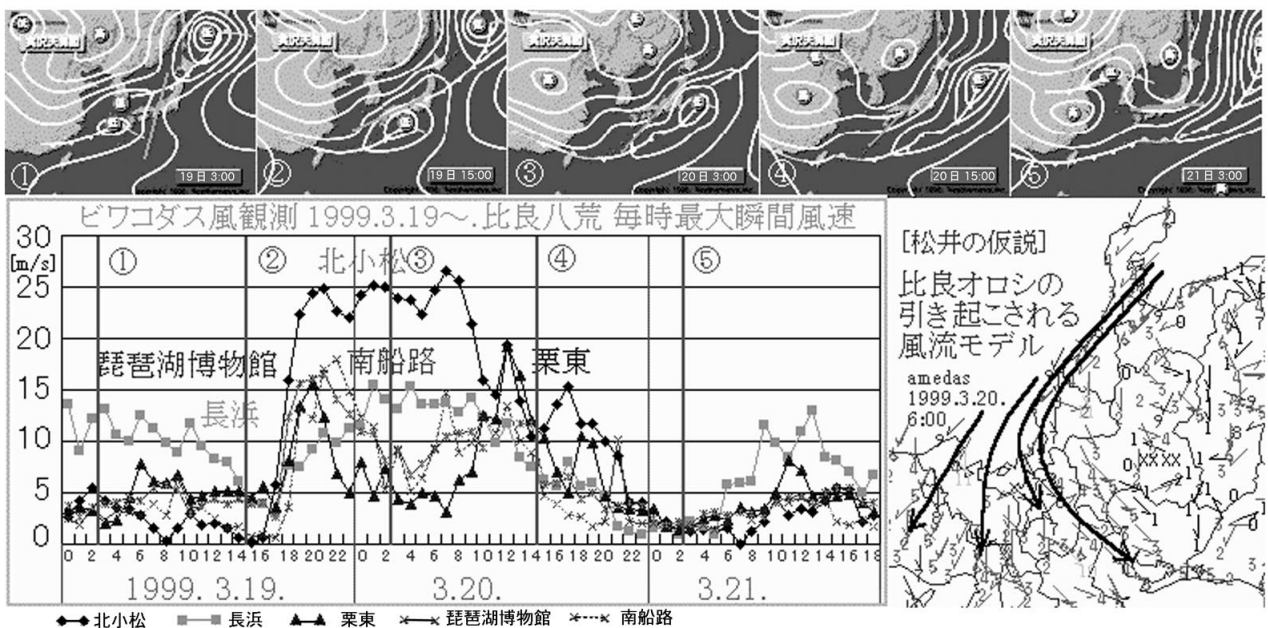


図31 3月19、20日の比良八荒の時の地上天気図、ピワコダス毎時最大瞬間風速、アメダス風観測